



# 京・三庚申

## 猿田彦神社

由緒略記  
洛西山ノ内

● 初庚申では病氣封じごんにやく祈祷  
氏名年令を書き御祈祷を受けて持ち帰り  
神棚に祀り願をかける。

家内安全・商売繁盛お札、交通安全の御守、

開運厄除・方除けの清め砂等授与

火の用心御札  
秋葉明神の御神徳にて

家内安全、火の用心。

手芸の上達を願い奉納される。

腰や財布につけて除難招福を祈る。

祈願絵馬

祈願の趣旨を書き願をかける。



### 授与品 盗難除け左なわ

左綱いの縄で玄関や勝手口、

戸窓、金庫等に吊るし守護を祈る。

布神猿

手芸の上達を願い奉納される。

腰や財布につけて除難招福を祈る。

火の用心御札

秋葉明神の御神徳にて

家内安全、火の用心。

手芸の上達を願い奉納される。

腰や財布につけて除難招福を祈る。

祈願絵馬

祈願の趣旨を書き願をかける。

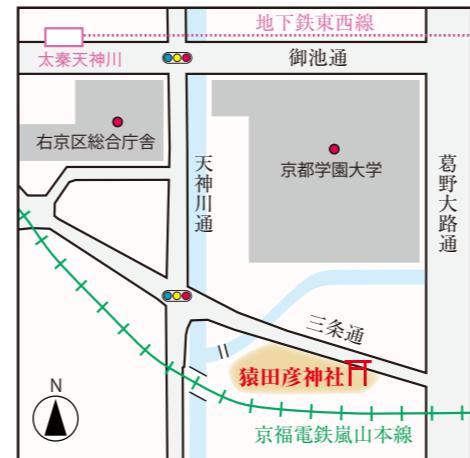


「青面金剛図」

松尾村庚申講中

「神猿の図」  
山口玲熙画伯の若き頃  
かねて信仰する当社に  
奉納された神猿の図で  
ある。

大正二年二月八日  
初庚申の節奉納



〒六一五一〇〇七三  
京都市右京区山ノ内荒木町三番地  
三条通り天神川東

嵐電・京都バス・市バス・山ノ内庚申前西へ  
電話 ○七五〇四三五九番  
宮司社宅 山王神社々務所  
写真／日本カラーフォトスタジオ株式会社  
印刷／有限会社 森田美術印刷  
電話 ○七五〇九三四四番

## ◆御祭神 猿田彦大神



御 神 號

伊勢市猿田彦神社 宇治土公定津氏 筆 天保十二年六月吉日

## ◆境内神

大国主社



秋葉社



稻荷社



御祭神・大國主命

御祭神・火伏の神秋葉明神

御祭神・稻荷大神

## 御神徳由緒

当社は山ノ内庚申と言い、京洛三庚申の一社に数えられ、洛西の旧社として著名なお社である。

猿田彦大神はものごとの最初に御出現になり万事最も善い方へ「おみちびき」になる大神で古事記、日本書紀でも「国初のみぎり天孫をこの国土に御啓行になられた」と伝えられ、人生の道案内の神、道ひらきの神と崇められ、諸芸上達、交通安全、開運除災、除病招福の御神徳を以つて世にしられて いる。見ざる言わざる聞かざるの三神猿は、世の諸悪を排除して開運招福をもたらすべき崇高なる御神教を示すのもである。

庚申祭りは、平安時代より十干十二支の庚申の日に祀り、江戸時代に至り庚申待、庚申講と言い村人が集まり猿田彦大神、青面金剛のお軸を掛け七種の供物を捧げ夜を明かして万福招来を祈願したのである。現在も当社では六十日に一度の庚申日にお祭りをしている。新年初めの初庚申日には、近郷近在より除福招来を祈り参詣する信者はあとをたたない。

御社殿はもと安井村松本領にあって、境内には山伏修験者の行場があり、愛宕詣りをする人々は滝に打たれ身を清めて参詣したものである。明治十八年に現在の地に移築されたが、今も行場の名残をとどめる大小無数の石が境内北側に存在している。また火伏せの神、秋葉明神や稻荷大神、大国主命が境内神として祀られ、南側には不動明王が祀られている。昭和五十五年は六十年ごとに迎える庚申の年にあたり御神殿修復中に礎石にしようされていた道標に刻まれた「あたごへ二里半」の文字に往時を偲ぶ事が出来る。



## ◆庚申御軸



「庚申青面金剛御姿図」

当村永代講中

「青面金剛図」



雲ヶ畑庚申講中  
中ノ町 納